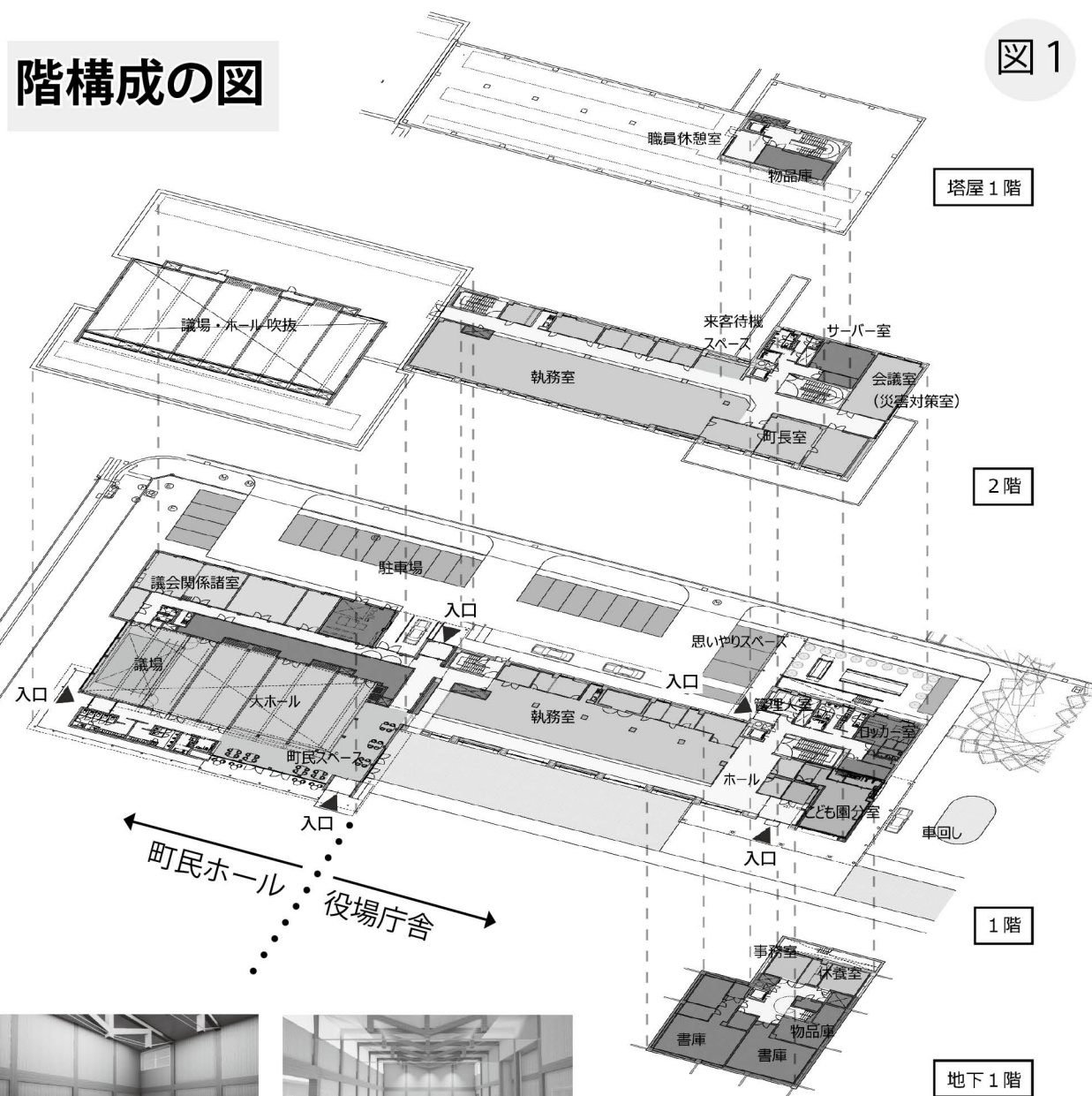




町民ホールと役場庁舎耐震改修のイメージ図

階構成の図



議場のイメージ



ステージを設置した場合の大ホールイメージ

図 1

01 役場庁舎耐震・ZEB化改修
02 町民ホール新築
 役場庁舎及び町民ホールは「ゼロカーボン上士幌」 「未来へつなぐ持続可能なまちづくり」のシンボルとなる施設として整備します。化石燃料からのエネルギー転換を図るため、徹底した省エネルギー化と再生可能エネルギーを導入することでZEBを目指します。また、すべて

ンボルとなる施設として整備します。化石燃料からのエネルギー転換を図るため、徹底した省エネルギー化と再生可能エネルギーを導入することでZEBを目指します。また、すべて

カーボンニュートラルなまちへ4プロジェクトを推進します

上士幌町は、地球温暖化対策の実施計画が認められ、環境省の「脱炭素先行地域」に2022年度に選定されました。まち全体での温室効果ガス削減、町民の安心・安全の確保と環境にやさしい新たな公共施設づくりへ、4つの事業を「カーボンニュートラルなまちづくりプロジェクト」として、一体的に進めていきます。

カーボンニュートラルなまちづくりプロジェクト

上士幌町はカーボンニュートラルが達成された「脱炭素社会」を目指します

概算事業費
14億7,000万円

01 役場庁舎耐震ZEB化改修

役場庁舎の減築・耐震化、快適な室内環境を実現しながら、消費するエネルギーのゼロを目指す省エネ庁舎とし、災害に強く環境に配慮した新庁舎に改修します。

実施設計・工事
2025年(令和7年度) ~ 2027年(令和9年度)

概算事業費5億円

03 再エネ・マイクログリッド構築によるレジリエンス強化

役場庁舎を中心とした公共施設群に再エネを供給し、クリーンエネルギーの活用と災害時のエネルギーを確保することによる災害に強い防災拠点を構築します。

実施設計・工事
2024年(令和6年度) ~ 2027年(令和9年度)

02 町民ホール新築

概算事業費17億4,000万円

町民が憩い、地域コミュニティの中心となる町民ホールを旧消防庁舎跡地に新たに建設します。

実施設計・工事
2025年(令和7年度) ~ 2026年(令和8年度)

概算事業費3億5,000万円

04 木質バイオマス・地下水利用による熱エネルギーの構築

地域内産の木質チップ活用によるクリーンな熱エネルギーを役場庁舎とふれあいプラザ(温浴施設)に供給し、エネルギーの有効活用を図ります。

地下水の未利用エネルギーを役場庁舎空調に活用することで化石燃料の削減と地下水由来のやさしい空調設備を導入します。

実施設計・工事
2024年(令和6年度) ~ 2027年(令和9年度)

「カーボンニュートラル」とは 社会生活で排出される二酸化炭素など温室効果ガスの削減量と、どうしても削減しきれない温室効果ガスを森林などで吸収することで、温室効果ガスの排出量を実質ゼロとする考えです。

ZEB(ゼブ)とは ネット・ゼロ・エネルギー・ビル(略称)で、大幅な省エネと再生可能エネルギーの活用によって年間のエネルギー消費量の収支をゼロとすることを旨とした建築物です。

全体スケジュール(予定)

プロジェクト	2024年度 (令和6年度)	2025年度 (令和7年度)	2026年度 (令和8年度)	2027年度 (令和9年度)	備考
01 役場庁舎耐震・ZEB化		設計施工一括発注方式(DB方式) 実施設計		改築工事	
02 町民ホール新築		実施設計	旧消防庁舎解体工事	新築工事	
03 再エネ・マイクログリッド構築		設計施工一括発注方式(DB方式) 実施設計		工事	
04 木質バイオマス・地下水利用による熱エネルギーの構築 ※1	実施設計	工事 (建屋・ボイラー)	●町民ホール熱(温)供給 ●ふれあいプラザ熱(温)供給 ●町民ホール熱(冷)供給 ●役場庁舎熱(温)供給 ●役場庁舎熱(冷)供給	●町民ホール熱(温)供給 ●役場庁舎熱(温)供給 ●町民ホール熱(冷)供給 ●役場庁舎熱(冷)供給	工事 ※想定 (地下水)

※1 木質バイオマス ~ 木質チップボイラーによる熱(温)供給設備 [暖房] <供給先> 役場庁舎/町民ホール/ふれあいプラザ
地下水 ~ 地下水熱(冷)による熱(冷)供給設備 [冷房] <供給先> 役場庁舎/町民ホール

す。また、マイクログリッド構築により、対象となる6施設は太陽光発電からの供給で年間約1150万円の電気料金削減につながる見込みです。

04 木質バイオマス・地下水利用による熱エネルギーの構築

山村開発センター北側にエネルギー棟を建設し、木質バイオマスボイラーと地下水熱利用設備を設置します。(図3)

夏季の地下水は外気よりも冷温であるため、町民ホールと役場庁舎の冷房として活用します。

木質バイオマスボイラーは、木質チップを燃料としていることから、カーボンニュートラルな熱エネルギーとなり、町民ホールと役場庁舎の冬季の暖房として活用し、夏季は主にふれあいプラザの浴槽と給湯の加温に活用します。

木質バイオマスボイラー導入により、化石燃料(A重油)を使用している役場庁舎は重油ボイラーを廃止、ふれあいプラザは重油使用量を削減することができます。

これにより、温室効果ガスは年間881t・CO2の削減効果が見込まれます。

脱炭素先行地域による国の財政支援で町の負担を軽減

3月に町民説明会を開催しました

3月18日(月)に生涯学習センターわっかで、カーボンニュートラルなまちづくりプロジェクト町民説明会を開催し、33名の参加がありました。

説明会では、役場庁舎耐震改修や町民ホール新築内容、新たに導入する太陽光発電や木質バイオマスボイラー、地下水熱利用システムについて説明しました。

参加者からは、「事業によってかかる経費は交付金でまかなえるのか」との質問があり、竹中町長は「国の脱炭素先



行地域に選ばれたことによる非常に大きな財政支援がある。例えば、太陽光発電では2/3、蓄電池は3/4が国からの交付金があり、その他についても様々な補助金を活用して、町の負担分を減らしていく」と話しました。

お問い合わせ カarbonニュートラルなまちづくり→ゼロカーボン推進課 電話 7-7255
役場庁舎耐震改修→総務課 電話 2-2111

マイクログリッドイメージ図

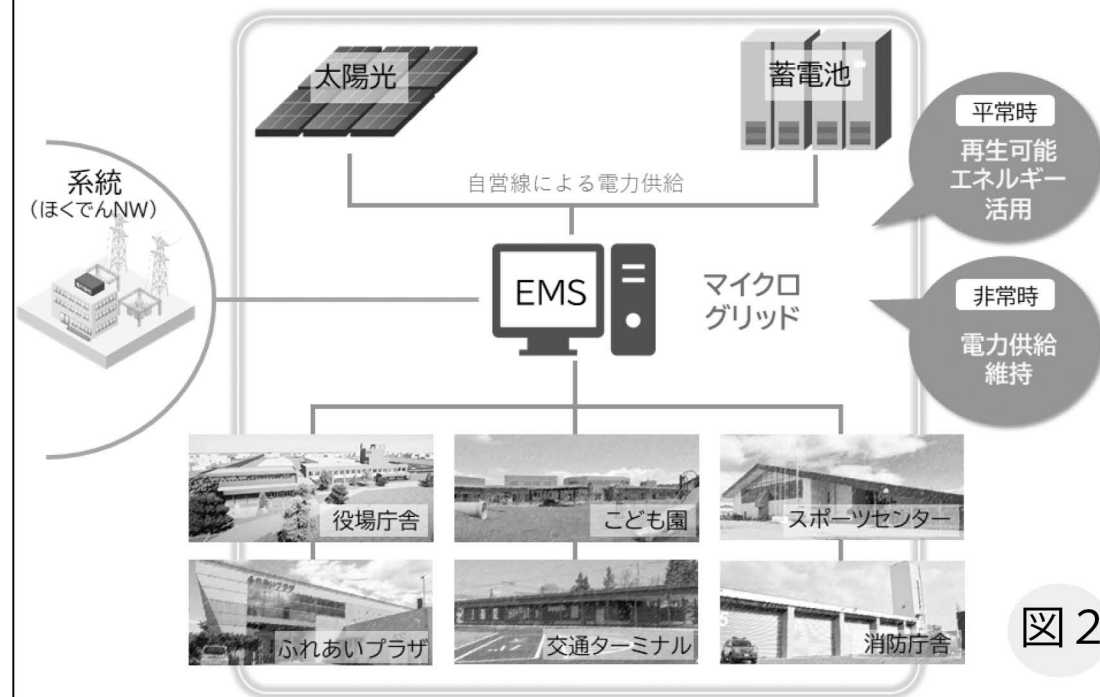


図2

の人が利用しやすいユニバーサルデザインの考え方を取り入れます。

現役場庁舎は、耐震化と環境への配慮、費用対効果、建設後の維持管理等を踏まえ、3階部分を解体して2階建てとする改修を行います。

町民ホールは、議会機能や避難所を兼ねる集会施

エネルギー棟の概要図

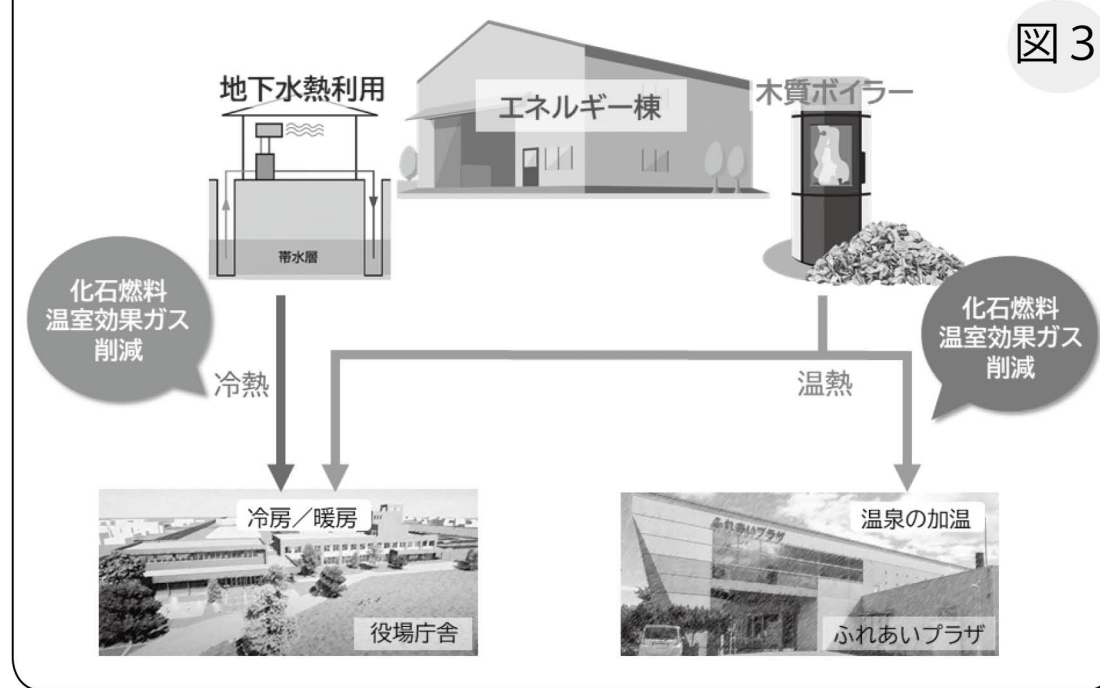


図3

設として、可動間仕切りや昇降式ステージで多用途に利用できるものとし、構造材には町産のカラマツ認証材を積極的に利用することで森林循環や環境性にも配慮した施設とします。(図1)

これらの施設は、災害の対応を含め、十分な耐震性を確保するとともに、停電時には非常用発電機と

03 再エネ・マイクログリッド構築によるレジリエンス強化

マイクログリッドシステムから受電し、町の安全安心を確保します。

マイクログリッドは、太陽光発電設備を設置して蓄電池と自営線(自前で設置する電線)でつなぎ、役場庁舎を中心とした周辺施設(役場庁舎、こども園、スポーツセンター、交通ターミナル、ふれあいプラザ、消防庁舎)に電力を供給します(図2)。

平常時は、太陽光発電のクリーンエネルギーが各施設で使用する電力の一部となり、温室効果ガス排出量の削減につながります。停電など非常時は太陽光発電と蓄電池を活用して、電力供給を維持します。

マイクログリッド基本設計の試算では、導入するための工事費は4億9500万円となりますが脱炭素先行地域として国から交付される3億6500万円と三菱UFJ銀行からいただいた寄付金を活用することで、町の負担なく構築する予定です。

公園計画

役場庁舎とのつながり

- 公園と新棟とを一体的に活用いただけるようにすることによって、トイレや屋内での休憩などの課題を解消するだけでなく、新たなコミュニティの形成を期待できます



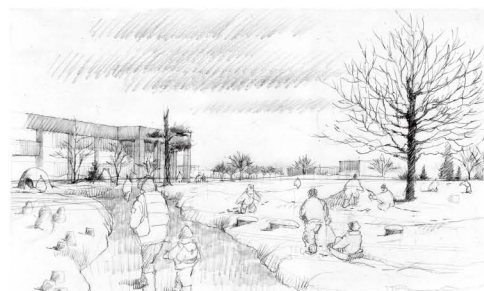
開かれた公園

- 誰もがいろいろな場所から出入りできるように開放的な出入りにします
- 既存の樹木を活かした緑地で公園の外周を緩やかに区切り、街路と公園を境目なくつなぎます



冬場も公園ですごせるように

- 冬季においても、その広さを活かした雪遊びや散策などができるようにします

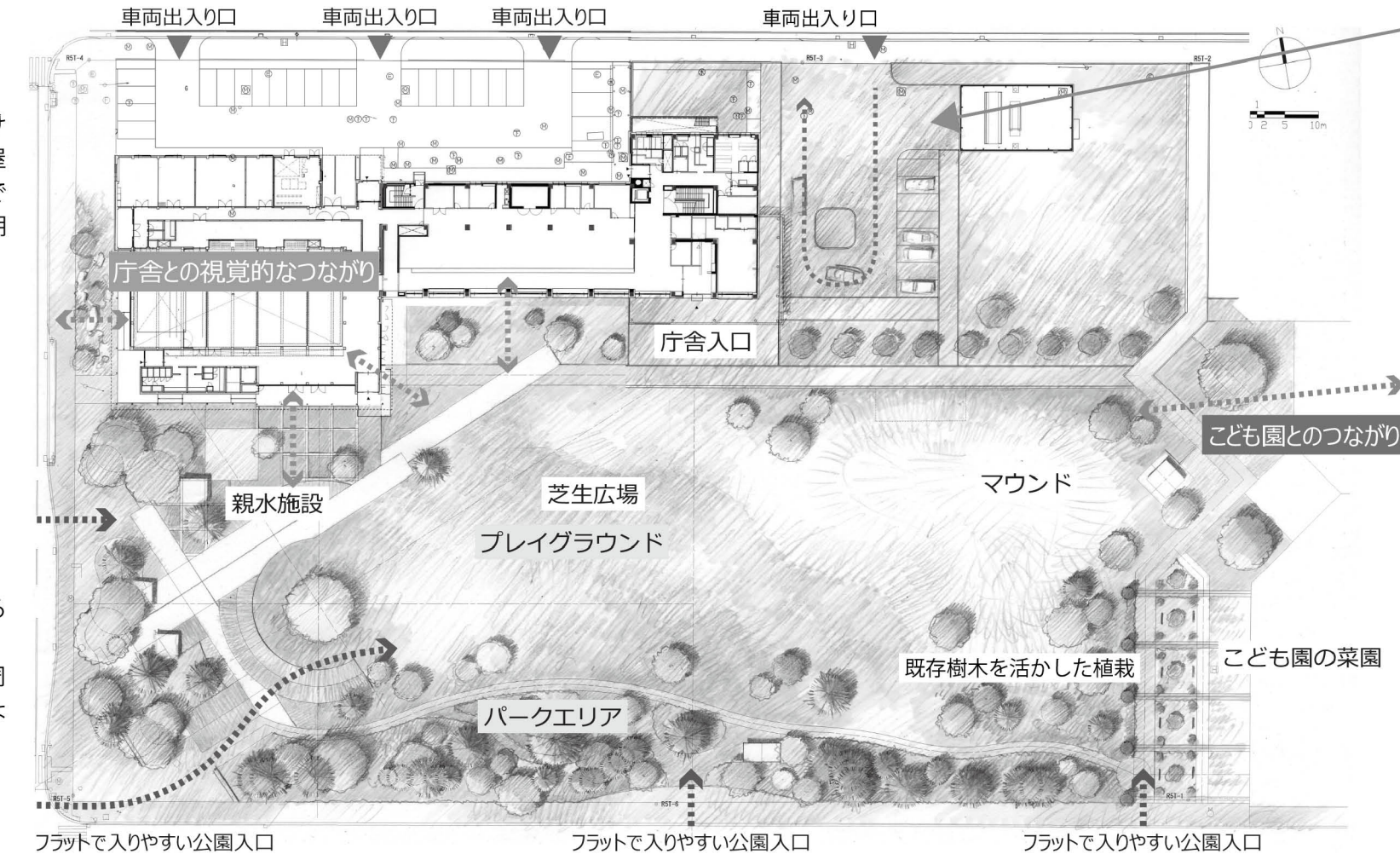


自由で豊かな遊びを

- 広々とした芝生広場で身体を大きく動かすなど自発的な遊びも創造できるようにします

概算整備費

概算工事金額合計	2億 5,370万円
消費税	2,537万円
合計工事費	2億 7,907万円



こども園とのつながり

- こども園とのつながりを意識した園路の整備や植栽を行います

四季を感じながらの散策

- 既存樹木を活かした園路にします
- 樹木の中でくつろげる休憩スペースを設置します

さまざまな過ごし方

- 既存のイチョウを中心に円形に広がる広場と街の区画を表現したグリッドパターンで表情豊かな場をつくります

概略工程

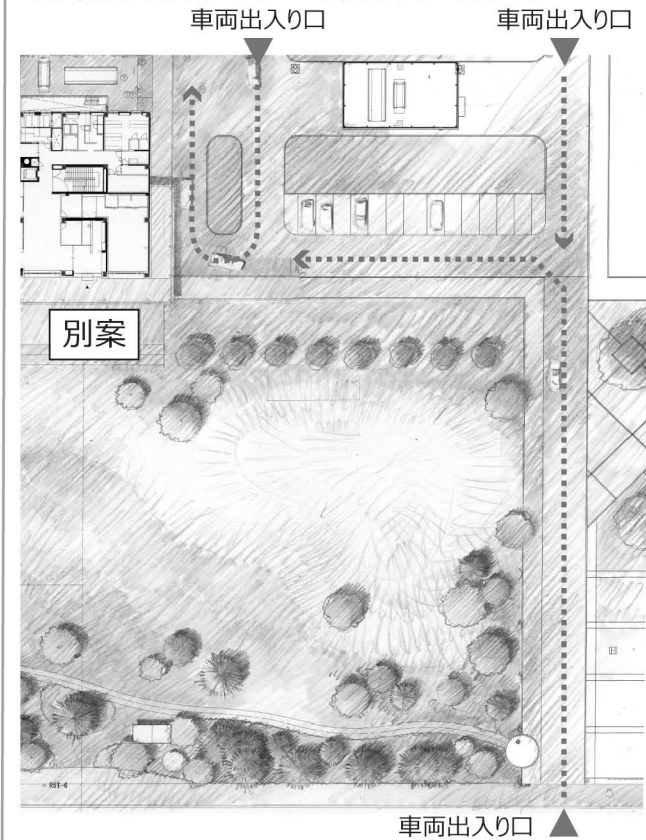
実施設計 令和9年(2027)6月~12月
 施工 令和10年(2028)5月~12月
 ※工程はあくまでも目安です

※お問い合わせは、建設課公園担当(電話 2-4297)まで



車両出入口の考え方について

車両の出入口については、公園及び役場庁舎並びに周辺施設に訪れる方や歩行者の利便性、整備後の影響などを考慮しながら、ひきつづき検討することとします



基本理念

1. 子どもの自由で豊かな遊び

- 安全に遊べるように、遊具や水辺などの設備を整備します
- 自然と触れ合えるように、芝生や花壇、森や池などの緑を豊かにします
- 創造力や冒険心を育むように、高低差のあるマウンドを整備します
- 楽しく学べるように、広いオープンスペースや、お年寄りや町民の方と触れ合うことができる場所を整備します

2. 多様な体験を支える場

- 変化のある空間とし、子どもも大人も楽しく遊べる場所とします
- 季節の花や木々を見て、色や形、香りなどを感じることができる場所とします
- 公園にある広い空間で、ボール遊びなどの身体を使う遊びができるようにします
- 冬季でも広さを活かした遊びができるようにします
- 公園で人と交流することで、友達や仲間を作ったり、コミュニケーション能力を高めたりできるようにします

3. 町民の憩いの場

- 全世代がのびのびとレクリエーションや散策、ウォーキングなどを楽しめる憩いの場とします
- 公園にあるベンチやテーブル、芝生などで、おしゃべりやお弁当を食べるなど休憩するようにします

4. 誰もが安心して過ごせる場

- 町内外者を問わず、障がいの有無にかかわらず、介護を受ける側も支える側も、緑に囲まれた空間の中で、誰もが安心して、快適に過ごせる空間づくりを進めます

町では、令和5年度に中央公園の再整備にかかる基本設計を行いましたので、その概要について、お知らせいたします。なお、基本設計については、建設課や町ホームページで閲覧できます。また、今後、実施設計を行う際に、町民のみならず、ご意見交換ができる場を設けたいと思っておりますので、改めて、広報誌等でお知らせいたします。

中央公園の基本設計がまとまりました